

## 学級会のススメ

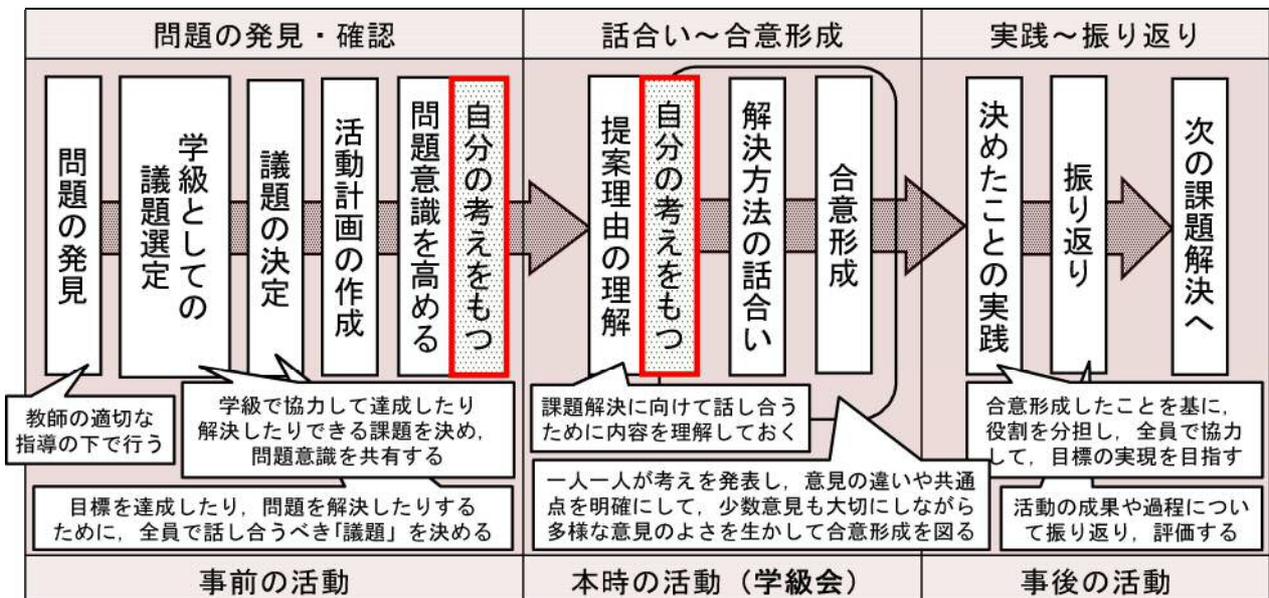
～子ども同士の「支援」の関係を育むために～

支持的風土を醸成し、子ども自身に学級の実態を見つめさせ、友達とのかかわりを考えさせる機会を、特別活動の学級活動（1）の視点から取り組んでみませんか。

### ポイント1 教科書は「学習指導要領解説」

特別活動には、教科書がありません。学級会に関わる内容について、学習指導要領解説に書かれていることをまとめると以下のようになります。

学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」指導過程の例(抜粋)



※学習指導要領解説を参考に、「自分の考えをもつ」という記述を指導過程に加えました。

### ポイント2 教師の支援で「問題の発見・確認」

学級活動（1）「学級会」の経験が少ない学級では、「問題の発見・確認」場面での教師の細かい指導が必要です。教師がどんな学級にしたいのかといったビジョンを明確にして、学級や子どもの実態に合った活動を想定した上で、子どもをよく見て、子どもの気持ちを取り上げ、寄り添いながら議題を決めて学級会の準備を進めます。

議題や話し合いの柱（話し合う具体的な内容）は、それを話し合う中で、教師のビジョンに迫ることができ、学級の課題が解決される（解決に向かう）ことができるものでなければなりません。子どもが学級で大切にすることが分かり、自分の成長や学級の変容に気付くことができる話し合いとなるように議題や話し合いの柱を設定する必要があります。まずは、学級が楽しく、居心地がよくなる活動を話し合わせ、少しずつ学級の実態や問題点を表出させ、その改善に向けての課題解決ができるように、教師が見通しをもって取り組むことが大切です。

### ポイント3 本音で語れる「話し合い～合意形成」

学級会では、話し合いの過程で子どもが学級や友達の実態を安心して本音で語れることが大切です。支持的風土が醸成された学級では本音を語ることができる温かい雰囲気があります。

まず、話し合いの前に子どもに議題や話し合いの柱に対する自分の考えをもたせるために、自分の考えを書かせることが有効です。教師は、その記述を基に本音が出し合える話し合いの流れを想定し、「話し合いの論点は何か」「どの子に何を発言させるか」などを予め考えておきます。

話し合いの途中には、教師が学級の実態に迫れるように司会や書記への支援を丁寧に行います。教師が話し合いの内容に口を出すことはしませんが、進め方には介入しても構いません。また、論点に迫る考えをもっている子の近くに行って励まし、発言を促すことも必要です。



例えば、『学級のみんながもっと仲良くなるようにスポーツがしたい』という願いを受けて、“どんなスポーツをするか”を話し合います。そのとき、「運動の得意な子と苦手な子がいる」「興味関心が高い子と低い子がいる」「経験の違いがある」といった発言から、『友達のことを考えて活動できるのか』『けんかは起きないのか』『どの子も楽しめるのか』を取り上げます。

そうすると学級の実態が見えてきます。「友達のミスを責める人がいる」「みんなで協力していない」「できる子だけが中心になって何事も進めている」といった発言が出てくればチャンスです。学級の実態を踏まえ、『今回の活動をどうするのか』『問題点をどう改善していくのか』が話し合いの中心となり、学級の課題と目指す方向が明らかになります。

### ポイント4 やってはいけない「話し合い～合意形成」

学級活動（1）においては、生徒指導上の問題等で答えが決まっている内容をあたかも子どもに委ねるかのようにして話し合わせることをやってはいけません。子どもが話し合いながら、試行錯誤しながら問題点を解決していかなければ学びはありません。

例えば、生徒指導上の問題、学級指導すべきことを議題にして話し合わせても、子どもは、教師の指導の意図を察知して建前を語るだけです。指導すべきことと話し合わせることは教師がしっかりと区別します。

### ポイント5 次につなげる「実践～振り返り」

学級会を行うことだけが学級活動（1）ではありません。子どもは、実践や振り返りの場面でもたくさんのことを学びます。そして、自分や学級の変容や成長を実感します。

学級会で決まったことを実践してもうまくいかなかったり、振り返りで新たな問題点が見えてきたりすればチャンスです。その問題点を学級の課題として捉え、次にどう解決していくかを話し合わせるができるからです。学級活動（1）は、スパイラルにつながっています。

子どもが心配事や問題を抱えたとき、学級に対して思いや願いをもったときに、その気持ちを引き出し、生かし、解決、実現していくのが学級会です。

子ども一人一人が思っていることや考えていることを気兼ねなく相談したり、話し合ったりする場を増やせば、子どもが互いに分かり合い、認め合えるようになり、「支援」の関係が生まれ、望ましい人間関係が結ばれます。

